

# 平成28年度 赤穂市学校評価報告書

学校園名 | 赤穂市立尾崎小学校

## 1 本年度の学校経営方針

少子高齢化・グローバル化・高度情報化の進展、雇用環境や地域社会や家庭の変容等、社会の急激な変化への対応や「いじめ」「不登校」「問題行動」等の様々な教育課題が山積している。そうした中、予測できない事態にも対応できるように、教育活動全体で児童に「生きる力」を育み、心豊かな児童を育成することは、これまで以上に重要である。

今、求められているものは、「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」であるといわれている。変化の激しい時代を生きる子どもたちが、それぞれの個性や能力に応じてこれからの社会を生き抜くためには、様々な困難に直面しても、自ら考え、状況を主体的かつ的確に判断し行動する力を身に付けることが不可欠である。そのためには、知識の質や量を改善するだけでなく、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・対話的に学ぶ学習等、そのための指導方法を工夫していく必要がある。こうした学習・指導方法の改革と併せて、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」学習評価の在り方についても、教育課程の編成、実施、評価、改善の一連のカリキュラム・マネジメントとして改善を図っていく必要がある。

また、「学校」、「家庭」、「地域社会」が、それぞれの役割を自覚しつつ、学びの共同体として、地域社会から学校への要請を自覚しながら「学校教育と社会教育の融合」を進めていかなければならない。

その中で、学校の役割は極めて大であり、学校としての情報発信をすると同時に、保護者や地域に学校を開くことが必要である。

また、子どもたちの学びを支えていく上で、学校は、子どもにとって安心して学べる場でなければならない。そのため、「いじめ」は人権侵害であり、決して許される行為ではないことを念頭におきながら、「いじめ」を許さない風土を育み、安全で安心できる「信頼」される学校づくりに努める。さらに、赤穂市の第三者委員会の提言を踏まえながら具体的な行動計画を基軸に取組を進める。

以上のことから、学校教育目標を「豊かにつながり合い 自ら考え たくましく生き抜く子の育成」と設定した。全教職員の共通理解を図り、子どもたちが夢を持ち、安全で安心できる信頼される学校をめざしていく。

## 総合的な学校園関係者評価

- ・不登校児童の現状を考えると、地域でもサポートできることを探っていきたいが、家庭と学校、そして地域とがしっかりと連携を取っていく必要がある。
- ・アンケート結果は、おおむね良好で安心している。ただ児童アンケート中の「学校であったことを、家の人に進んで話をしている」という項目の評価が低い。家庭でのコミュニケーションを活性化させる手立てがほしい。
- ・保護者アンケートの「いじめへの対応」については、一定の評価が見られるが、これからは学校はもちろんのこと、家庭と一緒に早期発見・早期対応に努めていく必要がある。
- ・地震による津波発生に対応する訓練を地域でも取り組んでいるが、まだまだ意識が低いように思う。できれば周辺自治会が主催する防犯訓練にも参加してほしい。
- ・勤務時間を守ることを通して、自らの健康にも十分気を付けていただき、児童に元気に対応してもらいたい。
- ・地域パトロールの高齢化対策と大人のマナーについては、今後の課題である。

## 2 本年度の学校(園)重点目標

- 1 確かな学力の定着と向上をめざす。(授業の改善と充実)
- 2 自尊感情を育み、望ましい人間関係を築く。(人権教育の充実)
- 3 教育専門職としての資質を高める。(研究・研修の充実)
- 4 効率的な学校運営をめざす。(勤務時間の適正化)
- 5 たくましい地域人を醸成する。(家庭・地域との連携)

## 3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点(重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組) 評価指標および目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
授業の改善と充実	項目 基礎基本を明確にして授業を進めている。 指標 授業はわかりやすく、楽しい。	保護者・児童アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新指導要領に備え、外国語活動や道徳教育の充実を図る。</li> <li>・基礎基本を確実に身に付けることができるように、朝の学習タイムや放課後を利用して学習の補充を行い、一人一人が自信をもって明日の学習に向かえるように取り組む。</li> <li>・家庭学習では、学習内容を例示するなど、家の人との関わりがもてるような工夫する。</li> <li>・問題解決型の授業を構築し、学習後の振り返りを大切にする。</li> <li>・「ほめて伸ばす」指導を意識し、ほめる機会を多くもち、わかるまで徹底的に指導する。</li> <li>・読書の実施や授業における図書室の活用を促進する。</li> </ul>
	項目 指導方法の工夫改善に努める。 指標 授業がよくわかる。	保護者・児童アンケート		
	項目 個に応じた指導を意識し、推進する。 指標 一人一人に合った指導をしているか。	自己評価 児童アンケート		
	項目 指導と評価の一体化に努める。 指標 明確な目標、多様な評価を行う。	自己評価 児童アンケート		
	項目 授業時数の確保に努める。 指標 カリキュラムに準拠して指導する。	自己評価		
	項目 実態に応じて工夫し、特色ある教育活動に努める。 指標 尾崎ならではの教育活動の展開。	自己評価 児童アンケート		
	項目 体験的、問題解決的な学習に取り組む。 指標 目的を明確にして効果的な活動を仕組む。	自己評価 児童アンケート		
	項目 課題教育の推進に努める。 指標 国際理解・環境・福祉・情報・健康教育	自己評価 児童アンケート		
	項目 朝読書の充実に努める。 指標 内容を豊かにする。	自己評価		

## 学校園関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学習指導要領に備え、学校行事の時期や内容を検討していく必要がある。本校の児童に欠けている点を見つめ直し、系統性や内容について、改めて検討していく必要がある。</li> <li>・昔から「読み書きそろばん」と言われるように、基礎的な内容を繰り返し学習することにより、力を付けていく。朝の学習タイムや放課後も有効に活用してほしい。</li> <li>・親子で読書をする大切さを感じている。そこで、学習タイム等を利用し、読むことの大切さを再度意識していく必要がある。</li> <li>・家庭学習の内容についての検討も必要である。</li> </ul>

観 点	評 価 項 目 (学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策
	評 価 指 標 (児童・生徒・園児の状態・行動)				
人権教育の充実	項目	全領域の中で推進する。	自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の人権感覚を磨き、不適切行動には、迅速な指導を行う。</li> <li>道徳・学級活動の時間を中心にした授業づくりを推進する。</li> <li>児童理解を深めるため、気になる子どもについて連絡会を持ち、指導にあたる。</li> <li>アンケートを継続して行い、課題やいじめの早期発見に努める。</li> <li>特別支援教育、インクルーシブ教育について分かりやすい説明、機会に応じた啓発を行う。</li> </ul>
	指標	計画的に実施する。	児童アンケート		
	項目	生きる力を育むよう積極的に取り組む。	自己評価		
	指標	常に目をかけ、声をかける。	児童アンケート		
	項目	いじめや不登校問題を解決しようと努める。	自己評価 保護者		
	指標	日常の観察、研修の充実、感性を磨く。	・児童アンケート		
項目	困り感に寄り添う指導に努める。	自己・保護者・			
指標	特別な支援を要する児童に適切に関わる。	児童アンケート			
項目	特別支援教育の啓発に努める。	保護者アンケート			
指標	保護者や地域住民に理解を促す。	ト			
研究・研修の充実	項目	自分で課題意識を持って研修に取り組む。	自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれが研究教科を定め、専門性の向上に努める。</li> <li>複数ある学級の利点を生かし、相互参観できる機会をつくる。</li> <li>新指導要領実施に向け、最新の情報を取り入れ、子どもを取り巻く教育課題に関心を持つ。</li> <li>専門性のある講師を招聘し、指導を仰ぐことにより、実践力の向上を図る。</li> </ul>
	指標	課題を明確にして、研究していることがある。	自己評価		
	項目	豊かな人間性の形成に努める。	自己評価		
	指標	休日には様々な活動に参加している。	自己評価		
	項目	日常的に体力向上に努める。	自己評価		
	指標	健康づくりに配慮している。	自己評価		
項目	忠臣蔵について研修する。	自己評価			
指標	赤穂義士について語れる。	自己評価			
項目	教育公務員としての自覚を持って生活する。	自己評価			
指標	教育について、常に興味関心を持っている。	自己評価			
勤務時間の適正化	項目	ノー残業デー、ノー会議デーの実施に努める。	自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日を実施し、ノー残業デー、ノー会議デーの完全実施に努める。</li> <li>校務データをより使いやすく整理する</li> <li>校務の能率化に努め、廃止、精選を進め、授業や子どもとともにいる時間を確保する。</li> <li>会議を精選する。</li> </ul>
	指標	毎週木曜日に早く帰る。	自己評価		
	項目	効率的に仕事を進める。	自己評価		
	指標	時間を意識した仕事をする。	自己評価		
	項目	子どもと向き合う時間の確保に努める。	自己評価		
	指標	子どもとともに過ごす時間が多。	児童アンケート		
項目	校務のデータの共有化を図る。	自己評価			
指標	学校のデータとして一元管理する。	自己評価			
項目	協働し、明るい職場環境づくりに努める。	自己評価 保護者			
指標	自分を表現する。互いに笑顔で働く。	アンケート			
家庭・地域との連携	項目	学校での様子を伝えるよう努める。	保護者アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストティーチャなど、地域の人材を積極的に活用する。</li> <li>積極的なあいさつを行い、気持ちのよい交流を心がける。</li> <li>学校行事の中で地域との交流機会を増やす。</li> <li>児童の良いことで連絡したり訪問したりすることを丁寧に行い、教育実践の「見える化」を図る。</li> <li>地域行事に積極的に参加し、共に支える意識をもつ。</li> </ul>
	指標	家庭への連絡を正確に適切にする。	保護者アンケート		
	項目	学年便りや家庭連絡等、相互理解を図る。	保護者アンケート		
	指標	定期的に発行する。保護者の願いを知る。	自己評価		
	項目	尾崎が大好きになる仕掛けをする。	自己評価		
	指標	授業の中に郷土の学習を仕組む。	自己評価 外部		
項目	電話、来訪者に丁寧な接遇をする。	自己評価			
指標	明るく、さわやかな接遇をする。	外部			
項目	保護者とともに熱意ある指導に努める。	自己評価			
指標	P T A行事や地域行事に積極的に参加する。	外部			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近、特別支援を必要とする児童が増えてきたため、しっかりと研修体制のもと、共通理解をして指導にあたっていく必要がある。特に支援を要する児童については、職員間で常に情報を共有し、その対応については、関係機関のアドバイスをもらう等の努力が必要である。</li> <li>音楽会や運動会などの行事を中心にして、達成感を与え、日常的にほめることにより、自信を持たせたい。</li> <li>児童をあたたかいまなざしで包み、日頃の会話等から、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めてほしい。</li> </ul>
○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの意思で研究と修養に努め、実践力の向上に努めてほしい。</li> <li>身の周りの人から何でも吸収するという意識をもち、チャレンジ精神で苦手なことにも関心を持って取り組んでほしい。</li> <li>子どもたちに言うだけではなく、教師自ら読書等を心がけてほしい。</li> <li>学校以外の活動にも積極的に参加し、豊かな人間形成に努めてほしい。</li> </ul>
○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事の進め方を意識して、効率的な時間の使い方を考え、限られた時間であるが、子ども達と向き合う時間を大切にしてほしい。</li> <li>勤務時間を意識し、仕事にメリハリのある行動で、お互いの健康にも十分気を付ける必要がある。</li> <li>一つ一つの会議や行事を再度見つめなおし、効率化を目指してほしい。</li> </ul>
◎	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な学校便りの工夫により、学校の教育活動や児童の様子を積極的に伝えてほしい。</li> <li>学校HPを更新し、広く積極的に知らせてほしい。</li> <li>オープンスクールや懇談会に多くの保護者が集まるように普段からのつながりを大切にしてほしい。</li> <li>教育・スポーツなどの専門職との連携を密にして地域に発信する必要がある。</li> <li>教師自ら地域行事に積極的に参加し、お互いの連携を図り、交流に努めてほしい。</li> <li>懇談会等を利用し、学校・家庭・地域が常に情報交換できる場を設けてほしい。</li> </ul>

自己評価における特記事項

- 毎週水曜日の朝マラソンが定着し、健康増進につながっていったと考える。
- 学校便りでは、児童の頑張りを定期的にお知らせした。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- 児童へのねばり強い関わりを行った上で、学習内容の習得状況や生活態度を保護者にしっかりと伝え、協力を得ながら、学力向上をしっかりと図っていく必要がある。
- 楽しい学校生活、力のある学習活動に努め、不登校児童を減らす取り組みを進めていきたい。